

以下のリストは、特定の製品に適用される追加の利用条件を示す。各製品項目は、かかる製品に適用される1つまたは複数の脚注を示す。脚注は、本契約の条件を補足する。各脚注の定義はリストの後に記されている。注文関連ドキュメントで特に断りのない限り、エクステンション製品の利用条件は、対応する製品の利用条件に準拠する。

## デスクトップ製品

- ArcGIS Desktop (Advanced、Standard、またはBasic) (26)
- ArcGIS Earth (20; 65)
- ArcGIS Explorer Desktop (20)
- ArcGIS for AutoCAD(20)
- ArcPad (13)
- ArcReader (20)
- ArcGIS for Personal Use (3; 26)

## サーバー製品

- ArcGIS Enterprise
  - StandardまたはAdvanced (17、21、23、31、87)
  - Workgroup StandardまたはAdvanced (21、23、26、28、29、30、87)
  - ArcGIS GIS Server (StandardまたはAdvanced) (31)
  - ArcGIS GIS Server Basic (31、39)
  - ArcGIS GIS Server Workgroup (StandardまたはAdvanced) (26、28、29、30)
  - ArcGIS GIS Server Workgroup Basic (26、39)
  - ArcGIS Maritime (2)
- ArcGIS Enterprise オプション機能サーバー:
  - ArcGIS Image Server、ArcGIS GeoEvent Server、ArcGIS GeoAnalytics Server、およびArcGIS Notebook Server Standard (31)
- ArcGIS Enterprise Workgroup オプション機能サーバー:
  - ArcGIS Image Server、ArcGIS GeoEvent Server、ArcGIS GeoAnalytics Server、およびArcGIS Notebook Server Standard (4)
- ArcGIS Business Analyst Enterprise (17、21、23、31、87)
- ArcGIS World Geocoder Basic (67)

## Developer 製品

- ArcGIS Developer Subscription
  - すべてのプラン (24; 26; 66; 68; 89; 90; 91; 94; 95)
    - 2021年1月27日以前が有効開始日の有効サブスクリプション (79)
    - 2021年1月26日以降が有効開始日の有効サブスクリプション (88)
  - Builder、Professional、Premium、または Enterprise プラン (77, 92)
  - ArcGIS AppStudio Developer Edition (11、16、19)
  - ArcGIS Runtime SDK for Android、iOS、Java、macOS、.NET、Qt、または WPF (16、19)
  - ArcGIS Engine Developer Kit および Extensions (16、19、22、26)
  - ArcGIS Web API for JavaScript (16、64)
  - ArcGIS CityEngine SDK および Procedural Runtime (19; 84)
- ArcGIS Runtime Deployment License for Android、iOS、Java、Mac OS X、.NET、Qt、または WPF
  - Lite (15)
  - BasicまたはStandard (1、14、15、18)
  - Advanced (14、15、18)
- ArcGIS Engine Deployment License for Windows/Linux および Extensions (15、22、26)

- Esri File Geodatabase API(47)

#### モバイル

- ArcGIS Navigator (14)

#### その他

- ArcGIS Hub (85)
- ArcGIS Indoors (86)
- ArcGIS Maps for Adobe Creative Cloud 相補的ユーザー (74)
- ArcGIS Insights (17)
- Site Scan for ArcGIS Operator ライセンス (32; 33)

#### Online Services

- ArcGIS Onlineのサブスクリプションは、複数の販売プログラムで入手できる。
  - 商業販売、エンタープライズ契約、および政府プログラム (23、66、68、69、70、82、93)
  - 教育プログラム (23、66、68、69、70、71、82)
  - 非営利プログラム (23、66、68、69、70、71、82)
- パブリックプラン (66、68、74、75、76、80)  
以下のカテゴリに入るお客様にはこれらの追加権利がある。
  - 商業販売 (72)
  - エンタープライズ契約 (72)
  - 行政機関 (72)
  - NGO/NPO (72)
  - プレス/メディアプログラム (72)
  - 教育プログラム(71)
- ArcGIS AEC Project Delivery Subscription (83)
- ArcGIS Velocity (25)

#### 脚注：

1. ダイレクトコネクションによるエンタープライズ ジオデータベースの編集には使用できない。
2. ナビゲーションには使用しないものとする。
3. 個人の、非商用使用に対してのみ使用許諾される。
4. – 4コアサーバー1つに限定
  - 独立したマシンにインストール可能
- 5–10. 未使用
11. ArcGIS AppStudio Developer Editionで構築されたアプリケーションは、ArcGIS Runtime Deployment License の利用条件に従うものとする。
12. 未使用
13. 二重用途ライセンスとして使用が許諾される。
14. ナビゲーション目的での使用が許可される。
15. デプロイメント ライセンスとして使用が許諾される。
16. お客様はSDKまたはAPIを使用して付加価値アプリケーションを作成し、輸出規制で禁じられていない場所で使用するエンドユーザーに対して、当該付加価値アプリケーションを配布およびライセンス付与できるものとする。
17. お客様は本製品に含まれるOracle Instant Client ライブラリまたはそのドキュメンテーションを再配布してはならない。Oracle は、お客様のOracle Instant Client ライブラリ利用に関してのみ、本契約の第三者受益者である。統一コンピューター情報取引法 (UCITA) は、お客様の Oracle Instant Client ライブラリの使用には適用されない。
18. デプロイメント ライセンスは、独立したアプリケーション用のコンピューター1台の付加価値アプリケーション1つにつき1つである。

19. ライセンスを、インターネットベースまたはサーバーベースの付加価値アプリケーションの開発に使用することはできない。
20. 再配布ライセンスとして使用が許諾される。
21. 指定ユーザーライセンスの使用に関する詳細は、マスター契約 <https://www.esri.com/legal/software-license> を参照してください。
22.
  - a. 1台のマシン上でArcGIS Engineアプリケーションを実行する権利を取得するためには、エンドユーザーは、ArcGIS Engine for Windows/Linuxソフトウェアまたはその他のArcGIS Desktopソフトウェア(Basic、Standard、Advanced)のいずれかのライセンスを取得しなければならない。また、
  - b. ArcGIS Engine付加価値アプリケーションを実行する場合、ArcGIS Engine for Windows/LinuxエクステンションをArcGIS Desktopソフトウェアと組み合わせて使用してはならない。単独使用のユーザーは、当該エンドユーザーのみが使用するマシン1台に複数のArcGIS Engine付加価値アプリケーションをインストールすることができる。
23. システム間通信
  - a. お客様は、Basicサービス ログインを使用して、ArcGIS EnterpriseもしくはArcGIS Onlineからお客様の組織内にある他のサードパーティ製エンタープライズ ビジネス システムに対して、一方向の読み取り専用の通信を行うことができる。お客様は、Esriが実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、Viewer 指定ユーザーの資格情報またはレベル1の指定ユーザーの資格情報をBasicサービス ログインのために使用できる。Basicサービス ログインのために使用される個別Viewer指定ユーザーの資格情報またはレベル1の指定ユーザーの資格情報は システム間の連携のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。
  - b. お客様は、Standardサービス ログインを使用して、ArcGIS EnterpriseもしくはArcGIS Onlineとお客様の組織内にある他のサードパーティ製エンタープライズ ビジネス システム間で、双方向の読み書き可能な通信を行うことができる。お客様は、Esriが実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、Editor (またはそれ以上の) 指定ユーザーの資格情報またはレベル2の指定ユーザーの資格情報をStandardサービス ログインのために使用できる。Standardサービス ログインのために使用されるEditor (またはそれ以上の) 指定ユーザーの資格情報またはレベル2の指定ユーザーの資格情報は システム間の連携のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。
24. ソフトウェアは、プロトタイプ付加価値アプリケーションの開発、テスト、デモンストレーション、およびマップ キャッシュの作成のみを目的として使用できる。顧客は、付加価値アプリケーションとマップキャッシュを、ArcGIS Enterprise ステージング サーバー ライセンスおよびデプロイメント サーバーライセンスで使用できる。ソフトウェアおよびデータは、Builder以上のプランを契約しているすべてのArcGIS Developer Subscription契約者が使用する目的で複数のマシンにインストールしてもよい。他のすべてのソフトウェアは、単独使用ライセンスとして使用が許諾される。
25. ArcGIS Velocity subscription には、注文関連ドキュメントに記載のとおり、所定のストレージおよびコンピュータまたはアイテム容量が含まれる。お客様がArcGIS Velocityサービスを作成した場合、コンピュータおよびストレージ容量は、利用可能な最大まで利用される。高度ライセンスレベルのお客様は、限定数のArcGIS VelocityアイテムユニットとArcGIS Velocityストレージユニットを購入して、容量を拡張することができる。専用ライセンスのお客様は、必要に応じて、ArcGIS VelocityストレージユニットとArcGIS Velocityコンピュータユニットを購入できる。Esriは、お客様のコンピュータの消費量が、お客様のサブスクリプションでお客様に割り当てられたサービス クレジットの約75%に達するか、ストレージの消費量が約50%に達すると、お客様のサブスクリプションアカウント管理者に通知する。Esriは、お客様がコンピュータまたはストレージ容量のすべてを利用した場合、お客様の追加のArcGIS Velocityサービス作成を一時停止したり、または既存のArcGIS Velocityサービスを一時停止したりする権利を留保する。Esriは、お客様が適切に追加のArcGIS Velocityコンピュータ、アイテム、またはストレージユニットを購入した場合、お客様のArcGIS Velocityサービスへのアクセスを速やかに復元する。
26. ジオデータベースは、お客様のデータの10ギガバイトに制限される。
27. 未使用

28. ArcGIS Enterprise WorkgroupまたはArcGIS GIS Server Workgroupアプリケーション以外のアプリケーションの同時使用はエンドユーザー10名に制限される。この制約事項には、ArcGIS Desktopソフトウェア、ArcGIS Engineソフトウェア、およびArcGIS Enterprise WorkgroupまたはArcGIS GIS Server Workgroupジオデータベースに直接接続するサードパーティ製アプリケーションの使用が含まれる。ウェブアプリケーションからの接続数に制限はない。
29. ソフトウェアには、サポート対象のバージョンのSQL Server Expressが必要である。サポートされるバージョンは、製品のシステム要件とともにEsriウェブサイトに掲載されている。
30. お客様のデータの使用は、最大10ギガバイトに制限される。コンポーネントはすべて、1台のサーバーにインストールしなければならない。
31. フェイルオーバーライセンスが含まれる。
32. このソフトウェアの使用には、ドローンを操縦するためのパイロット免許(例. FAA、EASA、など)は含まれない。
33. お客様は、このソフトウェアにより収集または処理したお客様のコンテンツを保存するため、このソフトウェアで提供のオンラインストレージを使用することのみ可能とする。
- 34–38. 未使用
39. ArcGIS GIS Server BasicおよびArcGIS GIS Server Workgroup Basicでは、ArcGIS GIS Serverに含まれている編集機能は使用できない。
- 40–46. 未使用
47. お客様は、お客様のエンドユーザーに対し、Esri File Geodatabase APIを使用する付加価値アプリケーションを開発および配布することができる。
- 48–63. 未使用
64. Web 配布用の付加価値アプリケーションは、他のEsri製品と併用しなければならない。付加価値アプリケーションと他のEsri製品を常に併用する場合に限り、付加価値アプリケーションとともに第三者の技術も使用できるものとする。
65. 他のEsri製品とのみ併用できる。ArcGIS Earthと他のEsri製品を常に併用する場合に限り、ArcGIS Earthとともに第三者の技術も使用できるものとする。
66. 有効なOnline Servicesサブスクリプションのあるお客様のみ、World Geocoding Serviceが作成した地理座標結果を保存することができる。
67. ジオコードは、年間サブスクリプションにつき、2億5千万件に制限される。
68. お客様は、Infographicsサービス経由でアクセス可能なデータを表示目的にのみ使用できるが、このサービスからいずれのデータも保存することはできない。
69. お客様の組織における事業目的での使用が許可される。
70. お客様の組織における開発およびテストの目的での使用が許可される。
71. 教育機関における教育目的での使用が許可される。
72. お客様の組織における事業目的での使用が許可される。
73. 未使用
74. 個人用途に利用できる。
75. 共有ツールを使用して公的に共有することによってのみ、お客様は第三者による付加価値アプリケーションの使用を許可することができる。お客様は、自らの業務上の使用を目的として付加価値アプリケーションを稼働させるために本サブスクリプションを使用することはできない。ただし、お客様が、教育目的に限定して付加価値アプリケーションを使用する教育機関、認定されたNGO/NPO組織、またはメディアあるいはプレス機関である場合を除く。
76. お客様は、プライベートグループの作成またはプライベートグループへの参加を許可されない。
77. 商用アプリデプロイメントライセンスが含まれる。
  - 次の場合、商用アプリデプロイメントライセンスが必要である。
    - お客様がArcGIS OnlineまたはArcGIS Enterpriseライセンスのみでの使用を対象としない収益を生む付加価値アプリケーションをデプロイする、およびOnline Services API キーにまだ移行していない。
  - 次の場合、商用アプリデプロイメントライセンスは必要ない。

- お客様がArcGIS Onlineおよび/またはArcGIS Enterpriseライセンスのみでの使用を対象とする収益を生む付加価値アプリケーションをデプロイする。当該の付加価値アプリケーションにはOnline Services API キーの使用は必要ない。
78. 未使用
  79. 月あたりのGeosearchトランザクション件数は、サブスクリプションにつき100万(1,000,000)件に制限される。トランザクションには、BasemapデータとGeocode Searchの両方のトランザクションが含まれる。1つのBasemapデータのトランザクションは、8つの256x256タイル リクエストに相当する。1つのGeocode Searchトランザクションは、1つの住所または場所に相当する。バッチ ジオコーディング後などに結果が保存された場合、その方法の如何にかかわらず、保存された結果はトランザクションの上限に対してカウントされない。ただし、ストレージはサービス クレジットを消費する。各月で1,000,000以上のトランザクションの場合は、Esri販売部または最寄りのディストリビューターに詳細をお電話にてお問い合わせください。
  80. 登録された教育機関の学生に対し、教育目的に使用する場合に限り、1つのサブスクリプションを複数の登録された学生で共有し、Online Servicesに直接アクセスすることができる。
  81. 未使用
  82. 特定の指定ユーザーのみが使用するワークフローを自動化しようとする場合に限り、当該指定ユーザーの資格情報をArcGIS API for Pythonの自動化スクリプトに組み込むことができる。
  83. お客様は、お客様のクライアント(以下「クライアント」)ごとに独立したAEC Project Delivery Subscriptionを使用しなければならない。お客様は、(i) AEC Project Delivery Subscriptionをそのクライアントとプロジェクト作業で協働することのみを目的として使用し、(ii)お客様がクライアントのために遂行するプロジェクト作業で、クライアントが AEC Project Delivery Subscriptionにアクセスして協働できるように、AEC Project Delivery Subscriptionへの指定ユーザー アクセスをクライアントに提供できる。クライアントは、それ以外の目的で指定ユーザー ライセンスを使用することはできない。お客様は、クライアントによるこれらの利用条件の遵守について一切の責任を負い、プロジェクト終了時には、クライアントにAEC Project Delivery Subscriptionの使用を確実に停止させるものとする。
  84. 商業利用向けのデプロイメントライセンスは含まれない。非商業利用向けもしくは教育利用向けのデプロイメントライセンスは含まれる。
  85. ArcGIS Hubに付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションは、ArcGIS Hubが有効にしたコミュニティイニシアチブをサポートするためにのみ使用できる。お客様は、第三者に、コミュニティ活動への参加のみを目的としてArcGIS Hubの指定ユーザーになることを許可できる。お客様は、従業員、代理店、コンサルタントまたは委託業者に、ArcGIS Hubからコミュニティイニシアチブを管理、構成、維持およびサポートすることのみを目的としてArcGIS Hubの指定ユーザーになることを許可できる。ArcGIS Hubに付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションの他の使用は許可しない。
  86. お客様は、ArcGIS Indoorsに付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションを、ArcGIS Indoorsドキュメントで定義したArcGIS Indoorsの機能を有効にするためにのみ、使用できる。ArcGIS Indoorsに付属のソフトウェア ライセンスおよびサブスクリプションの他の使用は許可しない。
  87. ArcGIS Enterprise 提供の パーセル ファブリック サービスへのアクセスは、ArcGIS Pro Standard および ArcGIS Pro Advanced を経由する場合は除き、禁止する。
  88. サブスクリプション制限は、利用可能なサービス要求プランの定義にしたがって決定する。
  89. お客様はAPI キーから第三者にOnline Servicesにアクセスする、収益を生む付加価値アプリケーションを配布できる。すべての収益を生む、付加価値アプリケーションは、Online Servicesへのアクセス時にAPI キーの使用が必要となる。上記の脚注77を除き、収益を生む、付加価値アプリケーションをOnline Services API キーに移行して使用する過程にあるお客様は、API キーへの移行が完了するまで、商用アプリデプロイメントライセンスを保持しなければならない。
  90. お客様は、開発およびテスト目的で組織内に複数のArcGIS Developer Subscriptionsを有することができる。お客様は収益を生む、付加価値アプリケーション用に、組織内に ArcGIS Developer Subscriptionを1つのみ使用することができる。
  91. アプリケーション移行—以下に関する付加価値アプリケーションを作成した開発者。

- a. 現世代のクライアントAPIs (すなわち、JavaScript 4.x と Runtime SDKs 100.x) は、2021年8月1日まで、アプリケーションに API キーを使用する必要がある。
  - b. 旧世代のクライアント APIs (すなわち、JavaScript 3.x と Runtime SDKs 10.x) は、2023年1月1日まで、アプリケーションに API キーを使用する必要がある。
92. お客様は開発内でプライベートグループを作成、またはプライベートグループに参加する、および ArcGIS Developer Subscriptionに含まれるArcGIS Online Organization Subscriptionをテストすることのみ許可される。
  93. 該当する注文関連ドキュメントに記載されたサービス クレジットが含まれる。サービス クレジットにより、お客様には一定の**Online Services**を使用する権利が付与される。使用できる数は、お客様が使用している**Online Services**に応じて変化する。お客様が**Online Services**を使用すると、自動的にお客様のサブスクリプションからサービス クレジットが減じられる。この場合、利用可能なサービス クレジットの最大数が上限となる。お客様は、必要に応じてサービス クレジットを追加購入できる。Esriは、お客様のサービス クレジットの利用が、お客様のサブスクリプションでお客様に割り当てられたサービス クレジットの約**75%**に達すると、お客様のサブスクリプション アカウント管理者に通知する。Esriは、お客様がそのサービス クレジットをすべて使用した場合、サービス クレジットを使用する**Online Services**へのお客様によるアクセスを停止する権利を留保する。Esriは、お客様がサービス クレジットを追加購入した場合、その**Online Services**へのお客様によるアクセスを速やかに回復させる。
  94. お客様は、**Pre-Paid Service Request Plan** を購入できる。**Pre-Paid Service Request Plan** でお客様は、**Online Services**を使用できる。お客様が**Online Services**を使用した場合、**Service Request Fees** がお客様のサブスクリプションから自動的に引き落とされる。引落額は、利用可能なプリペイド最高額までで、お客様が使用する**Online Services**によって異なる。Esriは、お客様の消費量が、購入した利用可能な **Pre-Paid Service Request Plan** の約**75%**に達すると、お客様のサブスクリプション アカウント管理者に通知する。Esriは、お客様が **Pre-Paid Service Request Plan** に支払った満額を消費した場合、サービス要求を必要とする、お客様による**Online Services**へのアクセスを一時停止する権利を留保する。Esriは、お客様が**Online Services**へのアクセス資金を投入すると、お客様による**Online Services**へのアクセスを速やかに復元する。
  95. お客様は、**Pay-As-You-Go Service Request Plan** を購入することができる。お客様は、**Pay-As-You-Go Service Request Plan** を購入した場合、消費できるサービス要求に制限はない。